

第 21 回学術大会でのアンケート結果

2014 年 12 月 1 日
日本免疫毒性学会学術編集委員会

9 月 11、12 日に徳島文理大で開催されました学術大会において、下記の設問でアンケートを行いました。48 名の方から回答をいただき、その結果を集計しましたので、ご覧ください。

1. 日本免疫毒性学会学術大会について

1) 今回（第 21 回）の学術大会について伺います

①興味をもたれた（おもしろかった、勉強になった等）セッションやテーマをあげてください

② 発表時間についてのご意見をお願いします（若手セッションはもっと短く、等々）

③ その他ご感想等ありましたらお願いします

2) 今後取り上げてほしいテーマや、その他ご意見等ありましたらご記入ください

2. 日本免疫毒性学会の今後の活動や方向性等について、ご意見やご提案等ありましたらご記入ください

3. ImmunoTox Letter についてご意見、ご提案等ありましたらお願いします。

アンケートでは、今回の学術大会について、若手会員が企画したシンポジウムをはじめ、多くの演題が非常に興味深く、大変に良い大会であったというご意見が多数寄せられました。会場の熱気そのまま伝わってくるようなアンケート結果でした。

一方、ImmunoToxLetter に対しては、回答はごく少なく、ニュースレターがほとんど読まれていないであろうことが読み取れました。印刷物を会員の皆様に郵送するのをやめてから、特に目に触れる機会が減ったものと推察しています。学術編集委員会ではこの結果を受け止め、またいくつかいただきました有益なご意見も参考にして、今後「皆様に読まれるニュースレター」を目指して、誌面のリニューアルなどをしていきたいと思えます。今後とも、ご意見やご支援のほど、お願い申し上げます。

なお、これまでのニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。執筆者にはご多忙の中、時間を割いてご投稿いただいた貴重な記事が多数を掲載されておりますので、どうぞご覧ください。

【企業等 20-30 代】

1. 1)

① シンポジウム：「次世代の免疫毒性研究を考える」。他分野の方のお話は、非常に新鮮で興味深かった：自己免疫。ワクチンに対する免疫原性：シンポジウム。S-01。S-04：P-16 マウス TDAR。S-04 アラムアジュバントとバイオマーカー：免疫毒性評価のためのマウス TDAR 法開発の試み：SJS/TEN 関連。ワクチン：シンポジウム。免疫毒性にも関わりのある最先端の先生方のプレゼンテーションはエキサイティングでした：化合物評価にかかわる演題シンポジウムはいろいろ試行錯誤がみられ面白かった：ランチョンセミナー（カニクイザル TDAR 試験法の検討）：試験法ワークショップ。

② 丁度良いと思えます：適切だと思います。カウントダウンの表示もよかった。

③ 時間は守ってほしいです：要旨集の裏表紙が日程表なのは見やすいです。

2) immunogenicity、自己免疫：抗体医薬に対する免疫対応について。免疫毒性試験の今

後について：動物とヒトの免疫種差：医薬品の免疫毒性試験の実例紹介など：免疫毒性のレギュラトリー試験法について：免疫毒性のリスク評価の方法：自己免疫性の副作用の検出方法について：①免疫毒性評価の検査法について②自己免疫性疾患の発症メカニズム。

2. 医薬品関連を増やしてほしい：学会において発表者はほぼアカデミアで興味深い内容ではありましたが、企業の研究者に向けた発表（試験法など）がもっと充実すると良いと思いました：学会として実施すべき研究テーマを挙げ、共同研究等募集しては？：同業での Round Table session など気軽に意見交換できるとりくみ等いかがでしょう？

3. 寄稿ばかりですので、各学会（SOT など）や世界の動向についての内容が欲しい。

【企業等 40代以上】

1. 1)

① LS-01 のランチョンミーティングが参考になりました：特別講演 I II。シンポジウム。試験法 WS：学生・若手発表(SY01-05) & 次世代の免疫毒性を考える(S01-04): Autoimmunity に関する情報が多かったので参考になりました：シンポジウム：古くから使用している Adjuvant(特に Alum)の作用メカニズム、内因性 Adjuvant の誘導からワクチンの副作用までのつながりが非常におもしろかった：「次世代の免疫毒性研究を考える」。「学生・若手発表」。

② ポスターセッションの時間が短かった：時間配分がとても良かったです：発表時間（残り時間）のモニター表示は分かりやすい（多少トラブルがありましたが…）：シンポジウムや試験法ワークショップでは、総合討論ができるよう討論時間を確保してほしい。

③ ポスター発表もプレゼンを行ってはどうでしょうか？：例年以上に多様なテーマで興味深かった：全体として質の高い発表が多く、内容の説明も分かりやすく、良い年会だったと思う。

2) パネルディスカッション形式によるホットなテーマの討論を行ってはどうでしょうか？：各講演に比べ、一般演題がやや少ない。他学会と一部報告内容が重複することは許容し、幅広い発表となればよいと思う：免疫学的視点からみた薬物性組織（肝、腎、皮膚、etc）障害：製薬会社などの発表が少なく、現状での問題点などが見えなかった：バイオ製品（再生医薬も含む）の Immunogenicity の評価法。

2. メーリングリストを使った質問の受付とその返答の公開：活性化は必要。ただし、今の多様性は失われたいほしい：Round Table discussion などの Session がほしいと思った。開発中化合物の Data は Publication できないので、記録に残らない情報交換がほしい。：「次世代の免疫毒性研究を考える」シンポジウムのように、新しい視点のシンポジウムを先進的に取り入れて（継続的に）ほしい。

【公的研究機関 40-50代】

1. 1)

① 特別講演 2 が大変勉強になりました。どのセッションもとても充実していて、全体的にすばらしい年会でした：学会、若手セッション：シンポジウム：シンポジウム。試験法ワークショップ：外部招待のテーマ。特に S-04：教育講演（峯岸先生）は素晴らしかった。

② 各発表の時間は良いと思います：現状で良いと思います：ポスターがあるなら、若手は 8+2 分でよい：今回の 1 日目若手の発表で、質問時間が長くなったことは、非常に良い経験でした。今後も若手のために質問時間を長くしていただきたい：若手セッションは、ポスター発表もあるので一般発表より少し短くてもよいかと思います：良いと思います。

③ セッション間の時間をとった方が良かったと思います。時間がずれたことでもあります、1日目はあわただしい印象でした：ポスターセッションはやはりあった方がよい：ポスター発表時間（5分程度）を設けて、ポスター前で発表してほしい：ワクチンの免疫毒性等各種の新しいテーマの発表があり”免疫毒性の新たな潮流”のようなものを感じました。若手のコメントも多く、非常に活発な良い会だと思いました：大会（年会）の運営、大変お疲れ様でした。

2) 製薬企業が用いる試験法の標準化。核酸医薬等の新しい種類の医薬品免疫毒性評価：in silico 研究。学会の年会費を下げ、年会の参加費を上げた方がよいのでは？：①免疫機能の変化とメタボロームへの影響。②遺伝子多型（免疫・炎症に関連）と免疫毒性との関係：バイオ医薬品の安全性の試験法。アジュバントの試験法。

2. 各分野との交流を深める：賛助会員制度の設立。免疫毒性初歩セミナーなどの教育の充実：免疫学会やアレルギー学会等との連携イベント：若手研究者がお互いにコミュニケーションを取れる様な機会の場。例えば若手用に宿泊施設を準備、安価に宿泊、夕食時などで自分たちの行っている研究を紹介しあったりする様な事ができると活発な学会となると思います：若い方々も発表しやすく、フランクに討論できる学会として発展して欲しい。

3. 他媒体への露出をもっと増やすべき：ホームページでみることが出来る旨を、学会員の方により徹底した方がよいと思います。

【大学 20-30代】

1. 1)

① 様々な分野の話が聞けたシンポジウム：シンポジウム(2)：どのセッションも活発なディスカッションまでできて良かったと思いますが、とくに1日目の午後のシンポジウムとポスターセッションが有意義でした。

② 日程を組む上で演者入れかえの時間を考慮した方が良かったと思います：会場へのアクセスによって学会の開始時間を少し遅くしてほしい：適度だった：初日 am くらい質疑応答の時間（+5分?）があっても良かったかもしれません：丁度良い。

2) In vivo 毒性と In vitro 実験系とのトランスレーション。疫学ヒト研究とのコラボレーション企画：ワクチン、アジュバントの安全性。

【大学 40才代】

1. 1)

① シンポジウム(S-01~04)がとても斬新で、視野の広いテーマですばらしかった：大変おもしろかった：シンポジウム。特別講演Ⅱ。SL-2：シンポジウム・特別講演・教育講演→すべて大変参考になりました。ワークショップもよかったです。とてもよい会でした!!：シンポジウム。座長?演者の発表時間を短くしてないか?もう少し簡潔な紹介まとめにしてほしい：シンポジウムは目先が変わって良かったです。

② 今のままで良い(2)：10分が適当だと思います。

③ 今年の学会は新しい風を感じ、今後の発展を感じました：大変良かったと思います：要旨集の裏表紙に日程表を印刷して下さったのは、とても便利でした。16時ごろに終了予定は助かります。この学会は夕遅くまでやるが多かった：懇親会のやり方。価格（若手・学生には負担が大きいのでは?）

2) 医薬品、食品の免疫毒性：環境と免疫に関わる Field の話題。幅広く（毒性学の枠にとらわれず）。

2. SOT-ISS を介しますますの国際化、他学会とのコラボレーションによる更なる活性化に期待：学生・大学院生の参加をもっとエンカレッジしてはどうか？他の学会に比べ年齢層が高いように思う：製薬会社の方の参加が減った印象を受けます。新薬候補物質の免疫毒性スクリーニングの話もうかがいたい。社内の情報だから難しいでしょうか。環境汚染物質の免疫毒性はナノ粒子のみになってしまう情勢のようですね。これから広まるのはバイオ医薬品でしょうか。どなたか存じ上げない先生が、「食品の人もいれば良い

のに」とおっしゃっていました。食物アレルギーについては、未熟 DC のネガティブセクションが免疫寛容に関与しているあたりの説が有力のようです。

【大学 50代以上】

1. 1)

①教育講演：「次世代の免疫毒性研究を考える」はたいへんおもしろく勉強になった。：学生の発表は大変きれいにスライド・ストーリーがまとまっていて、レベルが高いと思います：川村先生の話 (Zn Def)。ほかにもいろいろ。：シンポジウム 4 題。S-01 はほとんど理解できなかったが、環境毒性には、ポピュレーション・ダイナミック的な考えやアプローチが重要だと痛感しました。：S04。SL-02。WS-04：ポスター：初日シンポジウム。O-01～10：「次世代の免疫毒性研究を考える」

② 適切であったと思う(3)：各セッションの間に、休憩が少しあると良いと思う：初日前半の誤った時間配分は良かった：少し長目：若手セッションも含めて、質疑応答込みで 15 分は本学会の伝統ですし keep したいですね：発表時間は 10 分間、質問時間は 5 分間が適当。

③ 初めて参加致しましたが、大変楽しかったです：ナノ粒子の毒性の発表が多いですが、10nm 粒子は表面のスペースが小さいので、結合可能なタンパクの種類や大きさが限られると思っています。AFM や沈降試験などで、同定可能かと。また、金属表面が露出した粒子とタンパクのエマルジョンが毒性が高いと思います。ちなみに IgG は 20nm の Y 字です：全体的に良かったです。姫野先生ありがとうございました：staff のみな様ありがとうございました。とってもいい学会でした。姫野先生なりに、御苦労されたのですが、徳島→羽田は夕方の便もあるので、又次は土・日だし、もう少し oral の一般演題も聴きたかったですね。

2) 再生医療でつくられた人工臓器を使った毒性解析モデルを学会としていち早く採用し、スタンダードにできるような(動物試験代替法)のような社会への働きかけも重要かと思います：今回の Marc の発表内容の様なもの。後は年会長のお考えでのバラエティが丁度よい感じになっていると思います(なので、今のままでいいのでは)：粘膜感作への環境因子の影響。

2. 化合物の毒性を免疫機能との関連から明らかにしていくなどの観点は、とてもおもしろく感じております：ある被験物質の免疫応答を動物種、細胞腫を変えて測定しつづけることに、社会的な意義として、どの程度学会として義務を果たしているのだろうか?と考えます。予防として絡めてみますと、被曝しないことも重要かと思います：若手は 2 回受賞は少し疑問

3. 読んでいないのでわかりません：今のままで OK です。

【その他 50代以上】

1. 1)

① シンポジウム。若手発表：試験ワークショップは、今後更に発展させて欲しい。

② 初日は長かった…：現状で問題ないと思う。

③ ドリンクコーナーにイスがほしかった。

2) 医療機器と医薬品の評価の違い：免疫毒性に関する最新の情報は毎回盛り込んで欲しい。

2. 学会主導の共同研究ができるとうれしい：若い研究者を取り込む工夫が欲しい。例えば、免疫毒性質問箱的な苦勞していることに対する相談窓口があってもよい。

3. 紙の頃より全体を読まなくなった：シリーズ的に解説を伴うガイドラインの掲載があってもよい。